

山口・防府医療圏地域医療構想調整会議病床機能別検討部会合同会議
(平成29年度第2回) 議事概要

【日時】平成29年10月12日(木) 午後3:00～午後4:30

【場所】山口県防府総合庁舎大会議室

【出席者】郡市医師会関係者、病院・有床診療所関係者

- 公的医療機関等2025プラン等の説明を受け、意見交換を行った。
- 在宅医療を考える場合、本人のみならず家族の意向を明確にする必要がある等の意見があった。

【議事内容】

1 医療機能分化連携推進事業について(協議)

医療政策課から医療機能分化連携推進事業について説明し、該当医療機関から補足説明があった。

(主な意見・質問等)

質問等なし。2事業とも承認される。

2 公的医療機関等2025プランについて(協議)

医療政策課から公的医療機関等2025プランの概要について説明し、策定対象医療機関からプランについて具体的な説明があった。

その後、意見交換を行った。

(主な意見・質問等)

- 県立総合医療センターについては、現在地域で回復期機能が不足しているため、一部回復期機能を担っていただいているが、2025年に向けては三次救急の医療機関として回復期の在り方を検討すべきではないか。

→ 現状の体制を固定するものではなく、山口・防府医療圏の変化に対応し、変わっていかなければならないと思っている。

3 療養病床転換意向等調査の結果について(報告)

医療政策課から療養病床転換意向等調査の結果について説明した。

(主な意見・質問等)

- 回答項目に、医療療養から地域包括ケア病棟への転換が含まれていないがいかがか。

→ 本調査では選択肢がなかったが、その後行った第2回の調査（回答取りまとめ中）では、地域包括ケア病棟への転換も含め、より詳細な回答を求めている。

4 療養病床及び地域包括ケア病床に関する調査について(報告)

山口県医師会の理事の代理として神徳防府医師会長から療養病床及び地域包括ケア病床に関する調査について説明があった。

(主な意見・質問等)

- 在宅復帰には、入院時からリハビリを行い、できるだけ入院期間を短縮することが必要だが、患者サイドを納得させることが難しい。また、予防医学も大切であり、現場のアイデアが必要になる。

5 その他

山口健康福祉センターから第1回検討会において意見のあった在宅医療に対する意識調査結果等について、補足説明した。

(主な意見・質問等)

- 地域住民に将来像を示し、地域に医療・福祉について責任を持たせることが必要でないか。
- 在宅医療を推進するに当たっての障壁は家族である。家族の話を聞くことが大切ではないか。
- 医療サイドだけで考えては行き詰まるのではないか。行政、住民を含めて皆で考える必要がある。